[要旨]

第56回学生研究奨励論文

成功と失敗経験が与えるプロジェクトへの影響

－楽曲制作データを用いた実証分析－

伊藤誠悟専門ゼミナール第3部
経営学科　4年
1162141　堀場更紗

「成功と失敗という経験がどのような効果をもたらすか」という研究が数多くあるなかで、本稿は楽曲制作という特殊なプロジェクト単位においての成功・失敗経験の影響に注目した研究である。

音楽産業組織においてはその不確実性を吸収する「仲介者」の存在が重要であり、楽曲制作プロジェクトにおいてこの立場になり得るのは「編曲者」（個人）ではないかと考えた。本研究では楽曲制作プロジェクトを分析単位とした上で、編曲者がプロジェクトへ与える影響を分析した。

成功・失敗経験に関する先行研究では共通して失敗経験の有用性が示唆されている。このことから失敗経験は成功経験と比べるとより学習効果が高く、将来の業績に正の影響を与えることを推測する。この成功・失敗経験を楽曲制作プロジェクトにおける編曲者の経験に置き換えて、各編曲者の前作の失敗経験はその後の成功に正の影響を与えるという仮説を導出した。

分析には、オリコン・コミュニケーションズ株式会社が発行している「SINGLE CHART-BOOK COMPLETE EDITION 1968-2010」を使用した。被説明変数には各年のシングルCD総売上枚数を各年に発売されたすべての楽曲数で除したものを各年の基準値とし、同年に発売された各楽曲の売上枚数をこの基準値で除した「成功度」を用いた。この成功度に各編曲者の一つ前の作品の成功または失敗経験がどのように影響するかを測った。

分析結果より仮説は支持されなかった。この結果を踏まえ経験してから影響が出るまでの期間を延ばし、各編曲者の2作品前の経験を説明変数として扱った。同時に経験の連続性にも注目する仮説を新たに導出し分析を行った。しかしいずれの結果からも成功からは正の影響が、失敗からは負の影響が観察され仮説は支持されなかった。これにより、失敗経験の有用性を説いた先行研究とは反対の結果を得ることとなった。これらの結果から成功し続ける者や失敗し続ける者には解明されていない要因があり、経験の連続性には抜け出せないサイクルが存在する可能性が考えられる。